



皆さん、こんにちは。寒川町社会教育委員の●●です。

これから、寒川町社会教育委員による事例発表を行います。

本日の地区研究会のテーマは「社会教育でめざす『ひとづくり・つながりづくり・まちづくり』」です。

まず、私たちの寒川町について簡単にご紹介させていただきます。

寒川町は、古くから相模国一之宮、寒川神社の門前町として知られるとともに、町内には旧石器時代の遺跡や縄文時代の岡田遺跡は国内最大級の集落が発見されるなど、太古の昔から人々が生活していた痕跡が残っています。

昭和15年に町制を施行して寒川町となり、昭和30年代半ばから高度経済成長期に相模川沿岸を中心に向上が相次いで進出し、人口が急増し始め、昭和48年には27000人を超えました。その後も増加傾向をたどり、平成17年には48000人を超え、それ以降も微増で推移しています。令和5年4月1日現在で48,545人と神奈川県内で人口の最も多い町となっています。

町域は東西2.9キロ、南北に5.5キロ、面積は13.42平方キロメートルで、おおむね平坦なコンパクトな町です。

町の南北方向に走るJR相模線は、大正10年にまず茅ヶ崎・寒川間で開通され、現在は町内に3つの駅があり、町民の足として利用されています。

また、首都圏中央連絡自動車道（さがみ縦貫道路）が開通し、平成25年に町内にインターチェンジが2か所設けられたことにより、町民や企業にとって交通利便性が大幅に向上しました。



寒川町内の主な学校教育施設は、小学校5校、中学校3校、県立高校1校、社会教育施設は公民館が3館4施設、図書館が1館あります。

公民館は本日の会場である町民センターは昭和54年度に開館し、ホールや展示室を備えた大型公民館で、この他に寒川小学校の余裕教室2部屋を活用した町民センター分室があります。

北部地区と南部地区には老人福祉センターと公民館の複合施設となる文化福祉会館があり、集会室や実習室、図書館分室を備えた施設となっています。

寒川総合図書館は平成18年度に開館しました。

公民館と図書館は平成29年度から指定管理者制度を導入し、民間事業者による管理運営を行っていますが、外部評価や地域のニーズを取り入れた社会教育施設の在り方を検討していくため、社会教育委員会議の中に公民館及び図書館に関する事項を専門的に協議する公民館部会、図書館部会を設置しています。

本日の研究発表では公民館部会と図書館部会でそれぞれ事例発表をさせていただきます。



事例発表① すべての世代が集う 公民館をめざして

本日の全体テーマを「社会教育でめざす『ひとづくり・つながりづくり・まちづくり』」とした理由ですが、近年は少子高齢化、情報化、グローバル化の進展、地域コミュニティの衰退など、昨今は新型コロナウイルス感染症拡大など、私たちが生活をしていく上で、急速な社会環境の変化に対応しなければならない問題が顕在化しています。

こういった社会的な問題にどう取り組んでいくか、私たち一人一人がより豊かな人生を送るために、生涯にわたる学びを通じて行動変容をすることが必要となっています。

社会教育とは、学校教育の領域を除いたあらゆる組織的な教育活動を対象としており、学びを通じて、個人が成長すること、他者と学び合い、認め合うことで相互のつながりを形成していくことが特徴です。

地域の社会教育活動には、ともに学ぶ仲間と学び合い支え合うことで、人と地域のつながりを深め、地域コミュニティの活性化が期待されています。

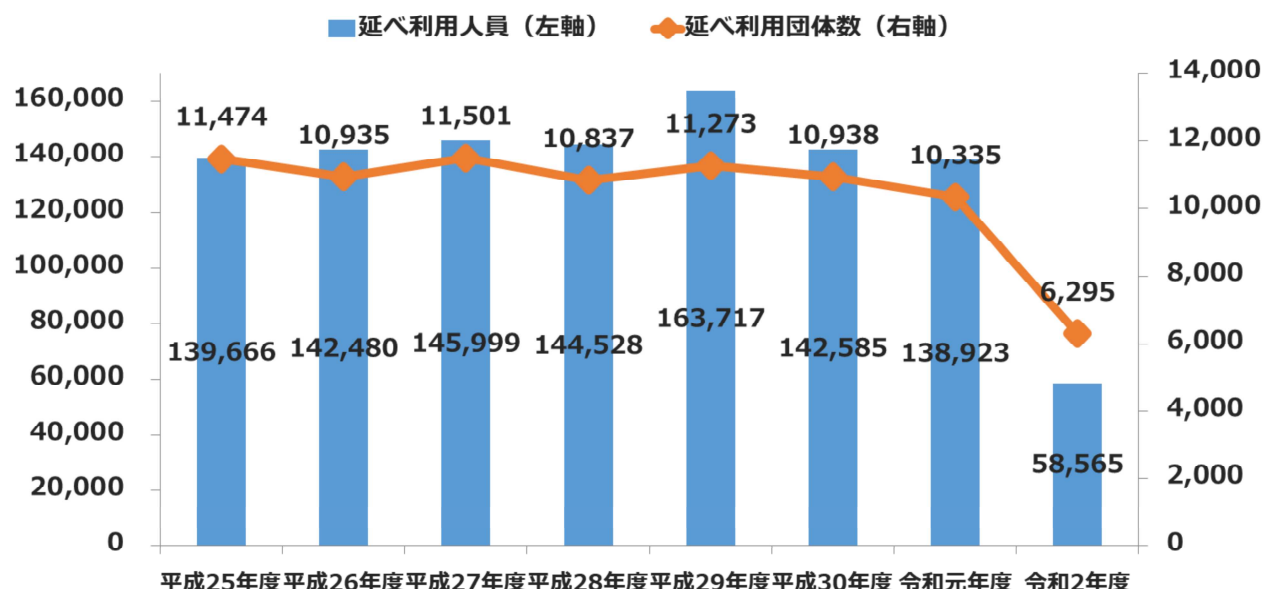
このようなことから、町民の学びの拠点となる公民館や図書館での人や地域をつなぐ取り組みについて本日は事例発表を行います。

初めに公民館部会で協議を行った「すべての世代が集う公民館をめざして」から発表いたします。

公民館年度別利用状況（4館合計）

（人）

（団体）



寒川町の公民館4館では、地域住民の身近な学習場所として、自主的なサークル活動で多くの利用があります。また公民館講座やイベント事業では様々な分野や対象に向けた内容を企画し、地域コミュニティを育む交流の場としても重要な役割を担っています。

しかし、令和2年から拡大した新型コロナウイルス感染症は、公民館活動にも大きな影響を与えました。グラフは公民館の年度別利用状況です。公民館が3月から6月まで長期の臨時休館を行ったり、外出自粛要請が出たりするなど、人が対面で集まる機会が減り、令和2年度は公民館の利用が大幅に落ち込みました。

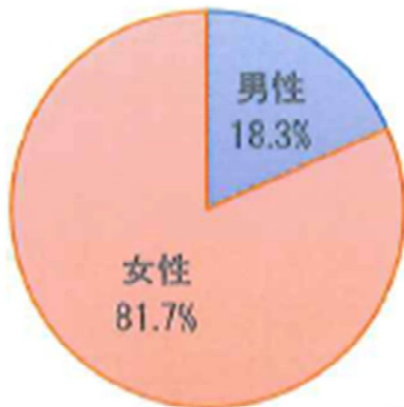
地域のコミュニティ活動、たとえば学校のPTAや、自治会・町内会、地域の伝統行事などが活動自粛となることで、地域における人々のつながりが一層希薄になりました。

自分に関わるコミュニティが少ない人は、人と出会う機会が減ることで、社会的孤立が懸念されます。

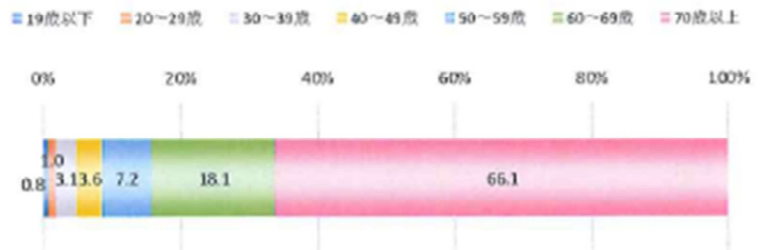
身近な地域コミュニティの衰退が課題となる中、公民館は地域の学習拠点としての役割を果たすためには、どのような工夫が必要なのか検討しました。

公民館利用者の男女比・年代

男女比



年代別割合



令和2年度公民館利用者満足度調査より

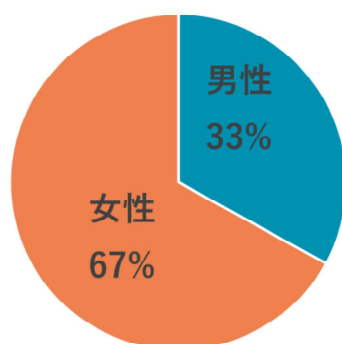
まず、公民館はどのような人々が利用しているのか。

公民館では、主に公民館に登録しているサークルの方々を対象に毎年「公民館利用者満足度調査」を実施しています。

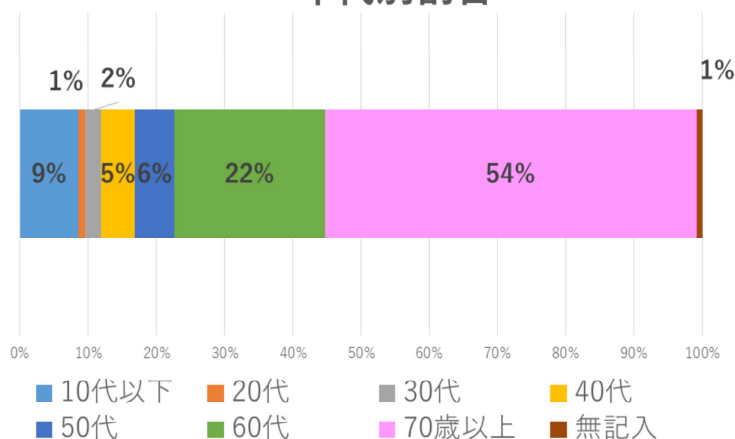
このグラフは令和2年度実績ですが、定期利用者の81.7%が女性、年代別では70歳以上が66.1%と割合が非常に大きくなっています。

公民館講座参加者の男女比・年代

男女比



年代別割合



令和2年度公民館講座参加者アンケートより

こちらは令和2年度の公民館講座に参加した方へのアンケート調査結果です。こちらも参加者の67%は女性、年代は70歳以上が54%と過半数を占めています。

公民館利用者の高齢化と固定化が以前より課題となっており、このサークル利用と講座参加者のアンケート結果からも、男性と20代から50代までの働き盛り世代・子育て世代が少ないことがわかりました。

人生100年時代が到来し、生涯にわたり豊かな人生を送るためには「生涯学習社会」の実現をめざす必要があるとされておりますが、地域の公民館利用の実状としては、シニアの女性以外の利用は多くない状況です。

すべての世代が集うためにはどのような取り組みが必要か考えました。

公民館に
すべての世代が集うためには
どのような取り組みが
できるのか？



現在、公民館を利用していない人において、公民館への関心を高めてもらうアプローチ方法はどのような工夫が必要なのかを考えました。

公民館をあまり利用していない世代とその原因

①中学生・高校生・大学生

生活圏や活動範囲が広がり、地域での活動が少なくなる。

②勤労世代

平日は仕事に時間がとられ、あまり地域に目が向かない。

③定年退職世代（とくに男性）

今まで地域と接点のなかった人は、活動に入るきっかけが難しい。

**公民館の存在を知らない。
公民館を知るための情報発信が足りない**

さきほど、公民館の利用者の男女比、年代をお示しましたが、公民館の利用者は高齢化や固定化が進み、総利用者数は減少傾向にあります。

その理由を探るため、公民館を利用しない世代とその原因について考えました。

まず、学生世代は、年齢が上がるほど、生活圏や活動範囲が広がり、地域での活動が少なくなること。

勤労世代は、平日は仕事に時間がとられて、休日や勤務後の余暇時間があっても地域での活動にはあまり目が向かないこと。

定年退職をした世代でとくに男性は、自治会などの地域活動や子育てなど女性に任せきりであると、地域と接点がなく、地域での活動に入るきっかけが難しいこと。

地域コミュニティを活性化させるためには、地域で活動する入口として、公民館を活用してほしいところですが、公民館利用者が増えないところには、まず公民館の存在を知らない、公民館を知るための情報発信が足りないのではないかという意見が出ました。

公民館を利用していない人へのアプローチ方法

- ①公民館を知ってもらう
→公民館活動、サークルへの認知を高める
- ②公民館に来てもらう
→公民館に入りやすい雰囲気をつくる
- ③公民館活動に参加してもらう
→魅力的な公民館講座を企画する
- ④公民館活動を継続してもらう
→公民館サークル活動の参加を促す

そこで、公民館を利用していない人へのアプローチ方法を検討しました。

1点目はまず、公民館を知ってもらうこと。あらゆる世代に向けて公民館活動、サークルへの認知を高めること。

2点目は、公民館に来てもらうこと。小学生などは学区に公民館がなければ、自主的に足を運ぶ機会が少ないことや、場所を知っていても、建物の中に入るきっかけがつかめない人もいるので、入りやすい雰囲気をつくること

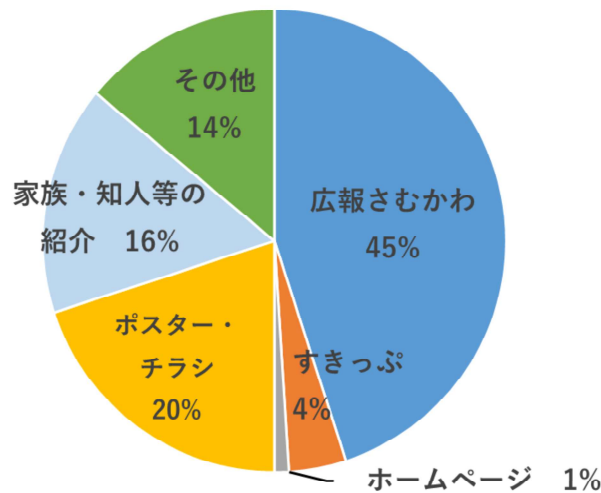
3点目は、公民館活動に参加してもらうこと。活動するきっかけとなるように魅力的な公民館講座を企画すること

4点目は、公民館活動を継続してもらうこと。サークル活動に参加し、定期的に公民館を利用してもらうこと。

この4点についてどのような取り組みができるかを考えました。

①公民館を知ってもらう

参加した公民館講座の開催情報を知った媒体



令和2年度公民館講座参加者アンケートより

まず、1点目の「公民館を知ってもらうこと・公民館活動・サークルへの認知を高めること」について、現在、公民館に来ている人はどのようなところで情報を得ているのか、公民館活動に参加する入口となる公民館講座の参加者アンケートで分析しました。

令和2年度の参加者アンケートの結果では、広報さむかわは、月1回町内に全戸配布される町の広報誌で、45%となっています。「すきっぷ」は、町内の保育園、幼稚園、小学校を通じて幼児・児童に年4回配布している子ども対象事業に特化した情報紙で、これが4%となっており、広報とすきっぷという紙の情報誌によって開催情報を知った方が全体の約半数となっています。

この調査では、ポスター・チラシが20%となっており、町内の広報掲示板や公民館内に掲示するポスターから情報を得ている人も一定数おり、効果があることがわかりました。

反対に、最近はスマートフォンやタブレットを持つ方が多くなりましたが、公民館講座の情報をホームページから知る方は1%と非常に低いこともわかりました。認知度としては低いのですが、やはりインターネットを活用してタイムリーな情報を発信することも重要だと考えます。

→公民館への認知を高める

[illegible]

公民館部会で、公民館を知らない人、関心のない人への情報発信関心のない人に情報がいきわたる工夫、PR方法はどのようなものが考えられるか検討した中で、年1回公民館の講座やPRするような保存版の公民館利用ガイドを配布してはどうかという意見がでました。

利用ガイドの内容は他にも、

- 公民館活動を総花的に紹介しようとせず、「公民館に来てください」とアピールするものを強調する
- 公民館講座の内容を充実させ、健康や環境など分野ごとで紹介する。
- 表紙は「公民館ご利用ガイド」など堅い言葉を使わず、「公民館へ行こう」というような呼びかけるキャッチコピーや写真などを用いて、目を引くデザインが良い。
- 子ども向けや女性向けの講座はこれまでも充実している。これまで公民館を利用してこなかった人に向けた講座づくりや、きっかけづくりが必要であるが、「利用していない人」では対象が漠然としてしまうため、仕事を退職して、時間に余裕ができた人をターゲットにする。

といった意見が出ました。

令和2年度春に発行の準備をしていたところ、新型コロナウイルス感染症拡大のため、発行を1年見送りましたが、令和3年4月に第1号を発行し、毎年4月号の広報誌とともに全戸配布をしております。

**Facebook紹介
の画像**

**YouTube紹介
の画像**

現行では広報誌や掲示板のポスターなどの紙媒体から情報を得る利用者が多いのですが、公民館活動の認知を高めるためには、あらゆる世代に「見える化」を図ることが必要と考えます。

高齢者には紙媒体が有効ですが、若い世代に向けてはスマホなどインターネット環境から情報を得る場合が多いと思われるので、紙媒体とインターネット媒体の2本立てでPRを行っていくことが良いとの意見がでました。

町のホームページのトップページに公民館のホームページのバナーやリンクを張ってはどうかという意見が出ましたが、町のホームページは町全体のお知らせを伝えるため、目立つ位置にバナーを置くことはできなかったため、SNSによるPR方法を指定管理者で実施を始めました。

講座の開催情報はFacebook、公民館サークルの活動を紹介する動画はYouTubeで発信をしています。

SNSによる情報発信が目に入るように、先ほどの公民館利用ガイドの表紙には、公民館ホームページ、Facebook、YouTubeの二次元コードを掲載しました。

②公民館に来てもらう

→公民館に入りやすい雰囲気づくり

公民館ロビー
の画像

広報掲示板
の画像

公民館に来てもらうためには、まず公民館の存在をしってもらうことが重要です。

町内のすべての公民館は、建設から40年以上が経過し、老朽化が進んでおり、寒川町公共施設再編計画では公民館の移転について懸案事項となっています。

この計画では、公民館の利用状況や稼働率から現行の機能とニーズに不一致が生じていることが指摘されており、公民館部会としても公民館の利用が低下している要因について考えました。

その中で、単に部屋の稼働率だけでは、地域のニーズはくみ取れていないということ、現在の公民館は駐車場が少ない、コミュニティバスが近くを走っていないといった公民館にアクセスする手段に問題点があること、幼稚園・保育園、小中学校のPTAや保護者会の集まりでも打ち合わせや懇親会ができる場所を探しているというニーズはあっても、公民館を利用できるということが知られていないという意見もありました。

ニーズがあっても存在が知られていないという問題について、まず公民館へ来てもらうために、公民館に行きやすく、入りやすい雰囲気づくりを行う必要があります。

具体的に、1人でも気軽に立ち寄れる公民館であるために、どのようなサービスや働きかけがあれば行きたくなるかを考えました。ウォーキングをしている時にトイレや自動販売機など気軽に立ち寄って休憩場所として利用できるといい、館外にある掲示板を積極的に活用して、外を歩いている人たちに今日の催し等魅力的な情報をPRすることで、立ち寄るきっかけにつながる、ロビー等で気軽に見学や参加ができる催しがあれば、休みの日など親子で気軽に立ち寄れて、実際に雰囲気を見てもらうことで活動に広がるといった意見がでました。

③公民館活動に参加してもらう →魅力的な公民館講座づくり



星空観察会



そば打ち教室

公民館講座は、町民のニーズに合った事業を開催することができれば、多くの参加者が来ることが望めます。公民館講座に参加した経験ができれば、その後も講座に参加することや、サークル活動に参加するきっかけにつながります。

子どもたちは、自分で広報を見て情報を得ることは少ないため、保護者に関心をもってもらうことが重要です。学校の授業から関連、発展した講座や、学校では見られない物の展示など興味を持ちそうな情報を特化してポスター掲示などすることで、子どもや保護者の目に触れやすくし、講座参加を促します。科学実験講座やプログラミング講座、星空観察会などが人気があります。

また、親子で参加できる事業を開催することで、子育て世代の父親の参加も見込めることから、公民館の利用者層で増やしたい勤労世代と男性の参加も期待できます。

なお、公民館講座の参加者は約70%が女性であるため、男性の利用を増やすためには、来やすいように男性対象に特化した内容や募集方法を工夫する必要があります。そば打ち教室や、歴史講座は男性に人気です。

子育て世代や男性が継続して公民館講座に参加しやすくなるような講座づくりも重要なことから、申込手続きに令和4年度から新たな取り組みを始めました。

③公民館活動に参加してもらう →公民館講座の申込手続きの工夫



電子でクラフト教室_2023年10月2日(月)開催

「電子でクラフト教室」2023年10月2日(月)開催 材料費100円
【受付期間(24時間受付)】9月2日(土)9時～9月24日(日)17時 定員6組

1)申し込み後、要日までに受付確認の返信メールが届かないときは下記に連絡願います。
2)申し込み内容の訂正または取り消しは下記に連絡願います。
3)9月25日(月)に抽選し、結果はメールで連絡します。
4)抽選日の翌日までに抽選結果の連絡がないときは下記に連絡願います。
※南部公民館(電話 9時～17時)0467-75-0281 (FAX)0467-75-1777

(保護者)お名前 必須 ※保護者が申し込んでください。
姓 名
ふりがな
せい めい

(保護者)メールアドレス 必須
公民館からのメール(〇〇@sanuka-c.jp)が受信できるアドレス

(保護者)電話番号 必須 ※日中つながる電話を、「0」から「-」無しで入力してください。

お子様のお名前 必須
姓 名
ふりがな
せい めい

公民館講座に参加するためには、申込手続きが必要です。従来は公民館の窓口か電話で申込手続きを行っていました。しかし、申し込むためには公民館の開館時間である午前9時から午後5時までに手続きをしなければいけないため、共働き家庭の多い子育て世代には申し込みがしにくい状況がありました。

子ども対象の講座は申込受付日を土日に設定するなど配慮をしていますが、夏休み時期の講座などはとくに人気があり、窓口に行列ができたり、電話がかかりにくいとの苦情もあったことから、令和4年度から新たにインターネットで手続きができるWeb申込フォームを新たに始めました。

スマートフォンやパソコンで24時間いつでも申し込みできることから、とくに子育て世代から大変好評で、子ども対象の講座の申込が増加しました。

これまでの公民館講座の参加者には常連が多く見受けられましたが、申込手続きがしやすくなったことで、初めて公民館講座に参加するといった新たな利用者の獲得につながっています。

夏休みの子ども対象事業など、参加申し込みが多いことが見込まれる講座は抽選方式で受付をしていますが、定員の3倍の申込がある講座もあり、落選者が多いことは心苦しいですが、先着順よりチャンスが増えること、潜在的ニーズが高いことが見えるようになりました。



「高座」のころ。
高座郡さむかわ

初級者 アコースティック・ギター 講座

開催日 6/10^土・6/17^土・7/1^土
午前10時～正午【全3回】

会場 寒川町民センター

持ち物 ①アコースティックギター②チューナー③ピック
④カポタスト★持っていない人は要相談

費用 1500円（資料代）



申込はこちら



「高座」のころ。
高座郡さむかわ

初めての卓球、
チャレンジ
しよう！

北部公民館 こども卓球教室

開催日 7月25日、8月1日、
8日、22日(すべて火曜日)
14:00～15:30

対象条件 町内在住の小学生24人
4回すべて参加できる人

持ち物 室内シューズ、ラケット
(ラケットは貸出もできます)




定員に達していないため、
先着順で追加募集中！

申込はこちら

また、寒川町では町公式LINEを開設し、約1万5千人の登録者がいることから、令和4年度から公民館講座の情報をLINEで配信を始めました。

町の広報誌より申込開始日や開催日近くに情報発信できるメリットがあり、積極的に情報発信するようにしたところ、配信直後に申込者が増える状況が見られます。とくに先ほど紹介したWeb申込フォームを利用している講座で効果が見られます。

町公式LINEで情報発信を始めた頃は、町民に「町からのお知らせが頻繁でうるさい」との意見もありましたが、最近は「町のいろいろな情報を知ることができて良い」と好意的な意見も聞かれるようになりました。

LINE情報配信後の開封率は令和4年度と令和5年度の平均で約40%、リンク先の公民館ホームページへのクリック率は約7%となっています。

令和5年度から公民館講座参加者アンケートに町公式LINE登録状況を確認していますが、参加者の46%が登録しており、情報発信に有効なメディアとなっています。

公民館講座は各館で年間約50事業を開催しており、平日と土日の講座の参加状況や男女比の分析なども必要であると考えます。

④公民館活動を継続してもらう →公民館サークル活動の参加を促す



初心者ウクレレ教室



初心者健康マージャン教室

公民館が人と人をつなぐ役割を果たすために、まずは公民館の利用目的として多い公民館サークルの育成、支援を図る必要性があると考えました。

なお、公民館サークルの登録団体数は近年横ばいではありますが、令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大以降は公民館の利用者数が減少しており、これはサークルの会員数が以前より減少していることが大きな要因となっています。

地域で何か活動をしたいと考えている個人が、公民館サークルの代表者に自ら活動内容や活動日の問い合わせをすることは、とてもハードルが高いです。

公民館がサークルと参加を考えている個人をつなぐ役割となることも望まれており、そのようなニーズを拾い、「サークル入会体験フェスタ」を毎年5月と11月に開催しています。この1か月間を公民館サークルの見学や参加体験を推奨し、既存サークルへの新規会員の加入促進を支援しています。

平成29年度から毎年期間が設定して実施をしていますが、フェスタ参加者やサークル加入者はそれほど多くない状況であることから、私たちは公民館サークルの会員が減少している根本的原因について考えました。

公民館サークルの会員減少について

- ①公民館活動・サークルへの認知が低い
- ②サークル活動をする人に若い世代が少ない
- ③利用しない人は「団体に入るとは面倒」という気持ちがある
- ④サークルに新しい人を入れたくないという気持ちがある

公民館サークルの会員が減少している原因として、公民館部会で意見を出し合ったところ、4つの問題があることが考えられました。

- ① 公民館活動・サークルへの認知が低い
- ② サークル活動をする人は若い世代が少ない
- ③ 利用しない人は「団体に入るとは面倒」という気持ちがある
- ④ サークルに新しい人を入れたくないという気持ちがある

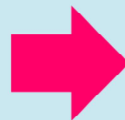
この4つの問題の改善方法について考えました。

サークル入会体験フェスタ
2020
期間 11月1日(日)~30日(月)

各館のプログラムやイベントはそれぞれ館でご案内します。

会場 町民センター/分室 南部・北部公民館
開館9:00~17:00(貸室9:00~21:30) 休館日:第3月曜
会場連絡先:町民センター/74-2333 分室/75-0021 南部/75-0281 北部/74-1515

令和2年度



北部公民館
サークル入会体験フェスタ
11月1日(火)~11月30日(水)
※事前予約不要、気軽に見学・体験してください

サークル名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	休
1 部活動(運動)																															
2 マジックアート(子ども会)																															
3 書道まがみ																															
4 音楽(子ども会)																															
5 津川児童会館																															
6 児童会(子ども会)																															
7 シルバーダンスサークル(高齢者)																															
8 かるた(児童会館)																															
9 かるた(スレック会館)																															
10 大塚児童会館																															
11 シンクレン(シニアセンター)																															
12 中津川(シニアセンター)																															
13 津川児童会館																															
14 ボールエクササイズ																															
15 ワーイービー(ユース)																															
16 プラネーション(ユース)																															
17 日本書道(児童会館)																															
18 津川児童会館(ユース)																															
19 サムライ(ユース)																															

お待ちしております ○:見学・入会体験日
北部公民館 TEL 74-1515 FAX 74-7405

令和4年度

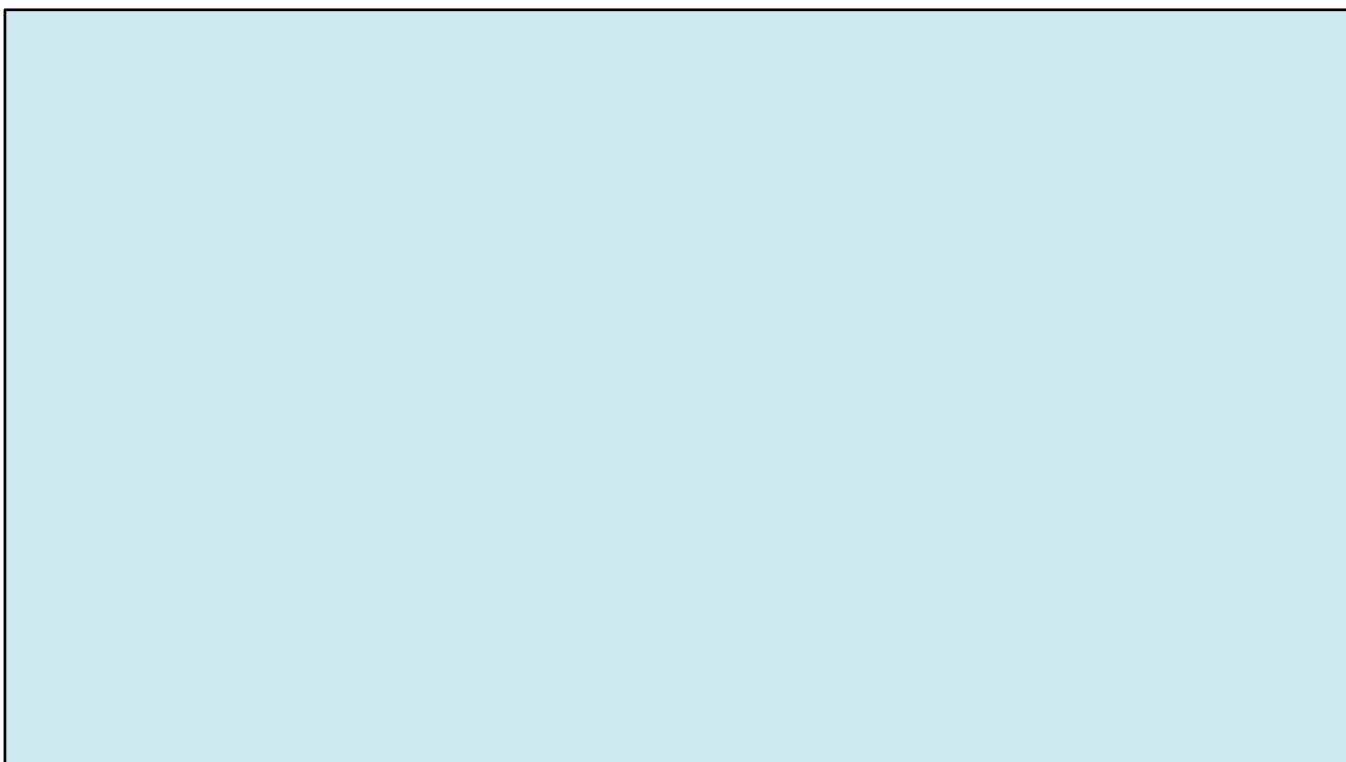
まず、課題の1点目、「公民館活動・公民館サークルの認知が低い」ことについては、「見える化」を足りないことがあります。

公民館の活動を知ってもらうためには、町民に対して繰り返し情報提供を行うことが重要で、全世代の目にとまるようには、紙媒体とインターネット媒体の両輪で進める必要がありますが、さらに情報が来るのを待っているのではなく、情報を得ようと能動的になってもらうことが望ましいです。

各公民館にはどのようなサークルがあるのかはあまり知られていないため、公民館の入り口付近にサークル一覧を掲示したり、サークル一覧を配布していますが、これを公民館以外の場所でもPRすることが有効ではないかとの意見がでました。

また、サークル入会体験フェスタは、まず体験希望者を増やすためには参加を促す工夫が必要と考え、参加できるスケジュールを確認しやすいように、ポスターにはサークルの体験実施日を一目でわかるレイアウトに変更し、町内の広報掲示板に貼るようにしました。

さらにサークル入会体験フェスタ期間前から公民館ロビーでサークルの作品展示を行うと、それを見た人がフェスタ期間中にサークル見学を促す契機になるのではないかという提案もでました。



課題の2点目は「サークル活動をする人に若い世代が少ない」ことについて、改善案としては若い世代の利用を増やす取組を仕掛けることがあげられます。

中学生、高校生といった学生の利用者を獲得するためには、趣味を同じくする人や趣味を持った人達でサークルが作れるように支援してはどうかという案が出ました。

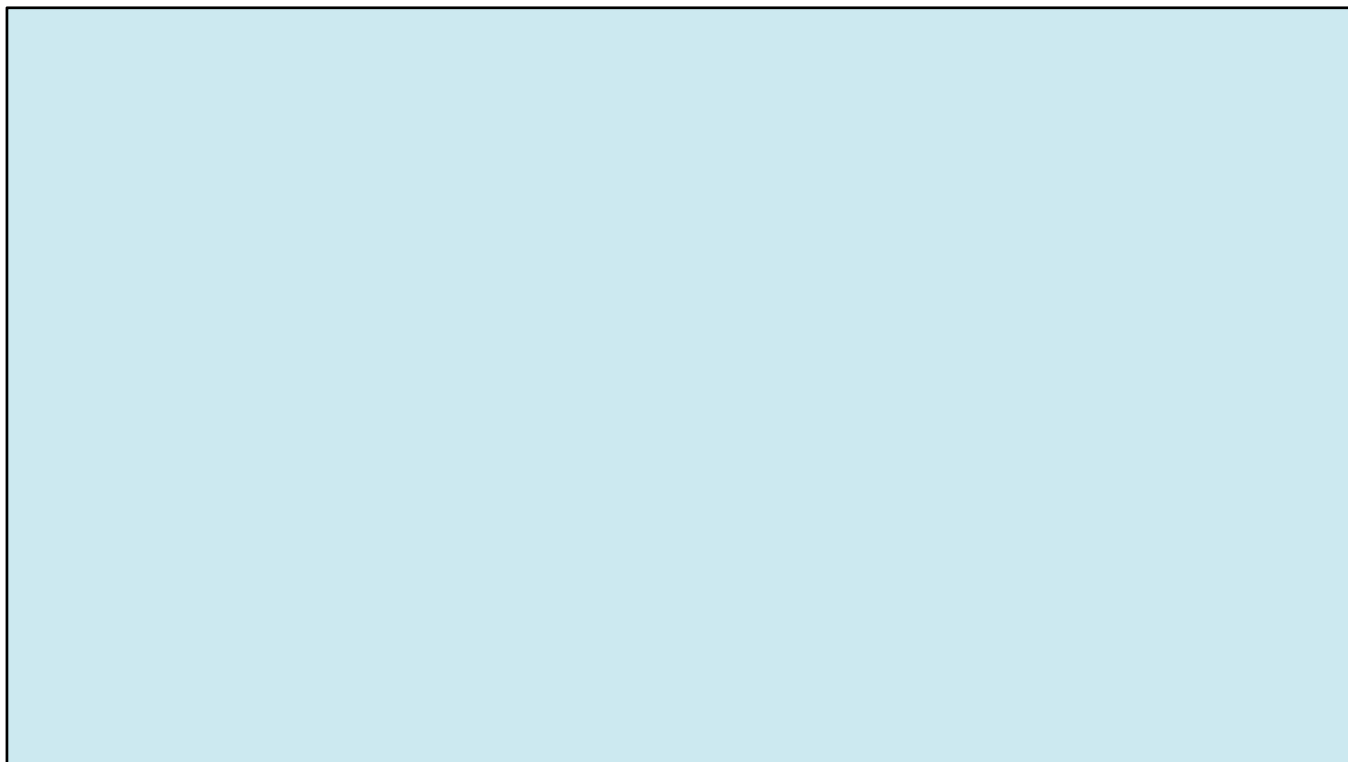
それぞれの都合に合った日程や時間などから選択して活動できるように、公民館の活動や行事などがもっと認知されれば、参加者も見込めるのではないかと考えます。

課題3点目は「利用しない人は「団体に入ることは面倒」という気持ちがある」ことについて、改善案として、地域に仲間がいて、活動が楽しいという気持ちを高める工夫をするという案が出されました。

公民館利用者拡大のためには、既存サークルへの加入促進支援だけではなく、住民ニーズの高い趣味や運動健康関係など公民館に行きたくするような講座を開設して、新しいサークル結成に繋げていく団体育成の支援も重要です。

とくにリタイア世代の男性は、働いていた時期に地域とのつながりが希薄だった場合が多く、地域活動に参加するきっかけづくりが難しいことも考えられます。

公民館講座で、開催回数が設定が2回以上であると、参加者同士が仲良くなることで、もうちょっと続けてみたいと意欲がわき、さらに、健康にいい、生きがいを感じるというような魅力が感じられる内容であるとサークル化に繋がりやすい傾向がありますが、サークルにしようと音頭を取ってくれる人の存在は大きいです。



課題4点目は「既存サークルには新しい人を入れたくないという気持ちがある」ことについて、改善案として、新しく参加する人が委縮したり、疎外感を感じなくしたりする配慮をするという提案がありました。

サークル入会体験フェスタは既存サークル側の受け入れ体制の課題があり、参加団体が減っています。

運動系サークルは活動場所の広さと人数の兼ね合いがあり、人数が増えると活動が難しくなるため、新規会員を入れられない理由もあります。

また、サークルに技量が違う新しい人が入ってくると、活動にギャップが生まれ、一から指導するにはサークル活動がしにくくなるため、受け入れはできない場合もあります。コロナ禍の中、サークル休止、退会や新規会員を拒むサークルもあり、既存サークルへの加入促進だけでは難しい点も見受けられました。

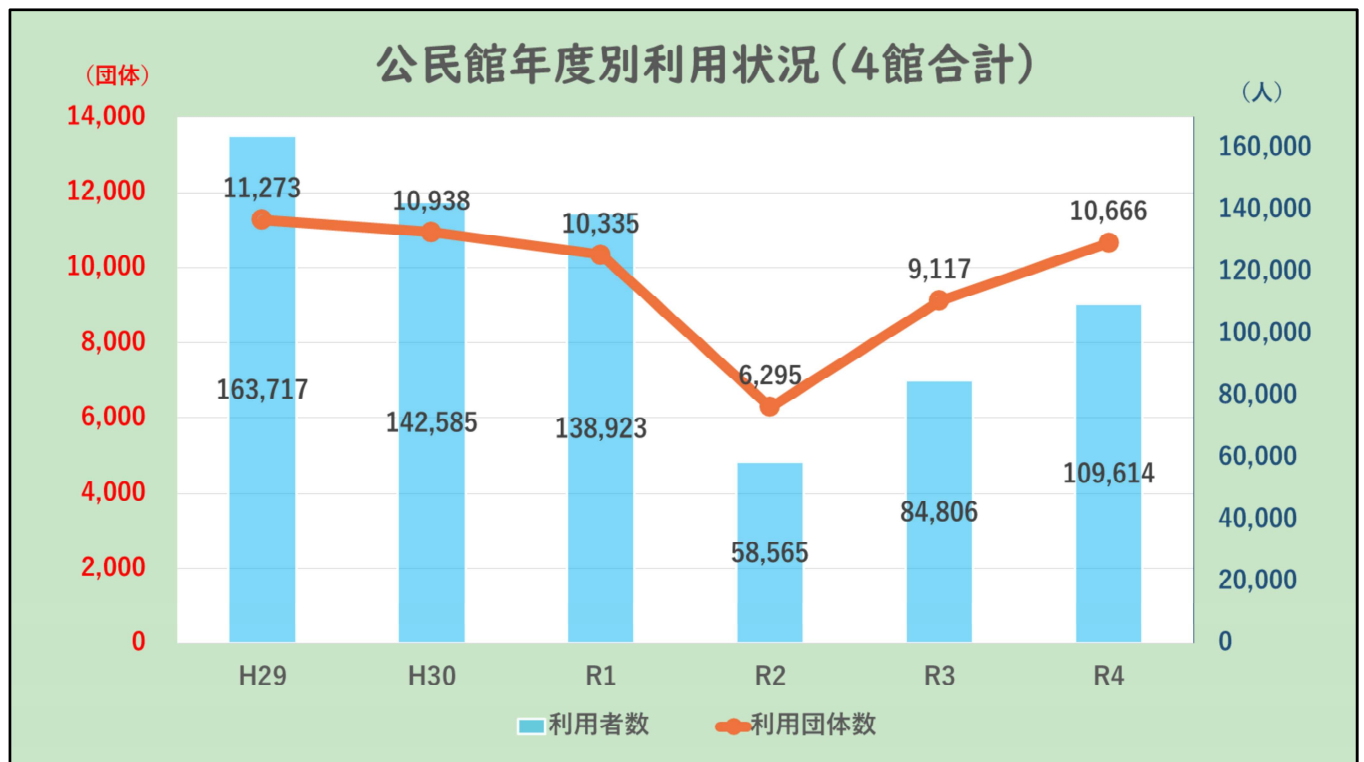
公民館ではサークル指導者に公民館講座の講師を依頼し、初心者向けの講座を実施することで、講座参加者が新たなサークルを作り、既存サークルとは別に活動するケースも出ています。

既存サークルの中の課題解決支援として、公民館サークル同士で抱えている課題を情報交換したり、他のサークルと交流したりする機会があると、より新しいつながりが広がることができます。各館の「利用者の会」で交流会を行うことは有効なのではないかという意見が出ました。

取組結果



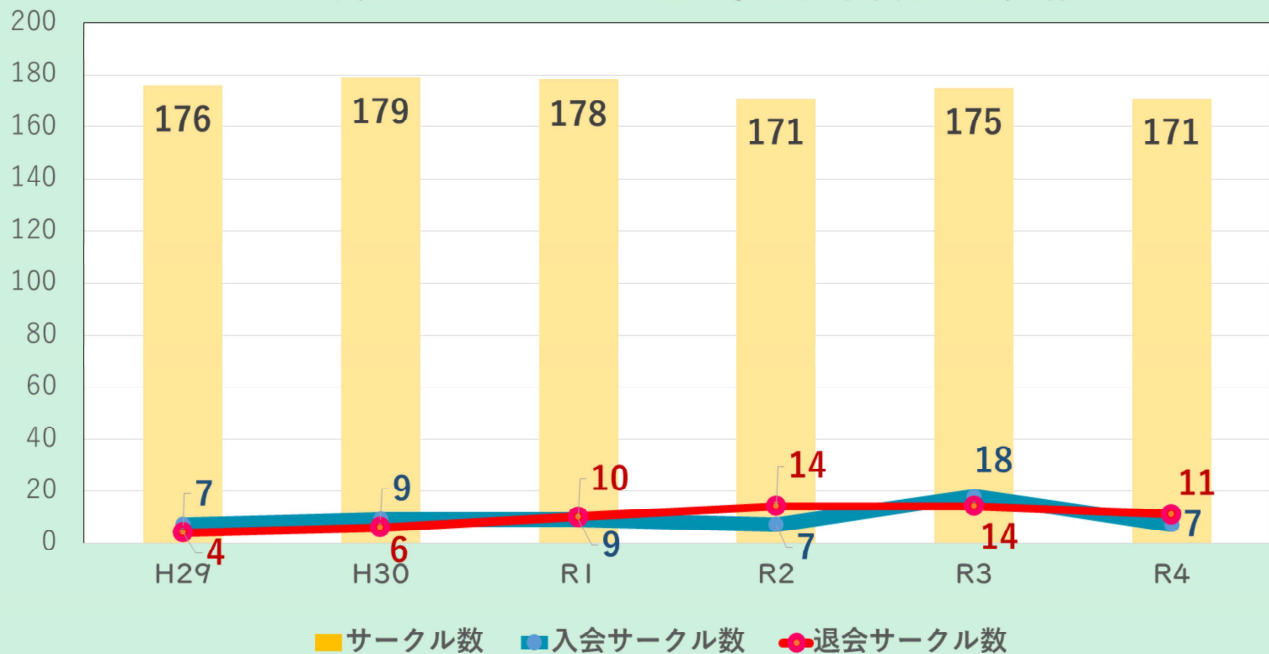
これらの取組を行った成果について、令和4年度の利用実績から検証してみます。



まず公民館の年度別利用状況ですが、令和2年度を最低値として、令和3年度以降は回復傾向が見られます。

令和4年度の利用団体数は令和元年度より増加しました。
 利用者数については令和2年度より伸びてはいますが、まだ戻らないことから、これは各公民館サークルの会員数の減少と、令和4年度はまだ多くの
 人集めるイベントの開催が少なかったことが考えられます。

公民館サークルの登録団体数の推移

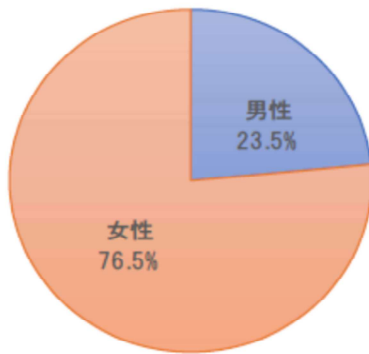


公民館サークルの登録団体については、平成29年度から令和4年度まではおおむね横ばい状態ですが、実際には入会と退会がほぼ同じような数となっていることで、登録団体数が維持されていることがわかりました。

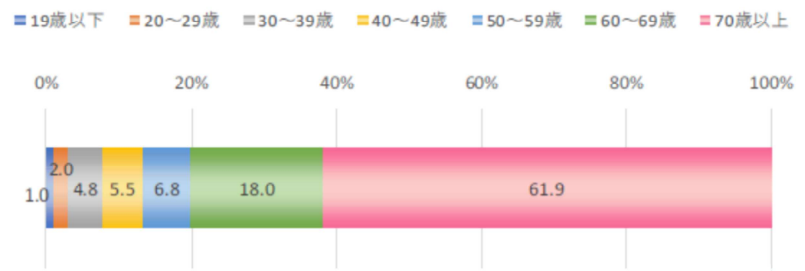
新型コロナウイルス感染症の影響で、高齢化して会員数の少なかったサークルは令和2年度と3年度は解散による退会が増えましたが、それに対して、新しいサークルを結成する機運も高まったようで、令和3年度は表にある6年間のうちで最も多い18団体が新たに登録されていることがわかりました。

公民館利用者の男女比・年代

男女比



年代別割合

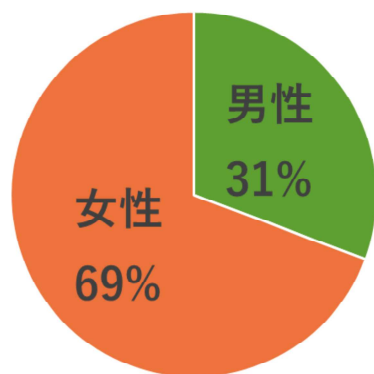


令和4年度公民館利用者満足度調査より

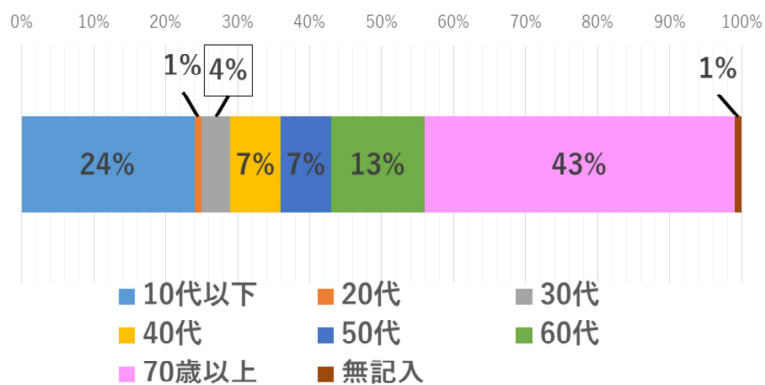
令和4年度の公民館利用者アンケート結果は男性が23.5%、70歳代の割合が61.9%となりました。これは、令和2年度より、男性利用が5.2%増加、60歳代以下の利用は4.2%の増加しており、サークルの利用については男性と60歳代以下の利用者が若干ではありますが、増加している結果となりました。

公民館講座参加者の男女比・年代

男女比



年代別割合



令和4年度公民館講座参加者アンケートより

こちらは公民館講座参加者については、令和2年度と比較し、男性は2%減少していますが、60歳代以下の参加割合は11%増加しました。

男性の利用促進に向けて、さらなる取組が必要な結果となりました。60歳以下の年代のさらなる利用と、リタイア後の男性の利用増加に向けて、講座の開催日の工夫なども必要であることが考えられます。

ご清聴ありがとうございました

寒川町社会教育委員会議公民館部会

小林 くみ

平本 正子

堀 洋己

山口 明伸

森 和彦

